

令和3年度 自己評価報告書



2022年4月1日

■ 園の概要

当園は、埼玉県越谷市に昭和47年4月に学校法人として開園しました。

長年、産業道路沿いの「ピンク色の幼稚園」として子ども達を目ひく園舎にて幼児教育を行ってきました。平成25年4月、園舎の老朽化や交通量の多い道路事情を考慮し、よりよい教育環境をめざし川柳町へ移転、新築いたしました。

待機児童の増加という現在の子育て事情を鑑み、「少しでも、地域の子育て環境を良くしたい。」との思いから、保育園部門を設置し「認定こども園」として同年開園致しました。

平成27年「子ども子育て新制度」に伴い、幼稚園部門・保育園部門が統一され、新たなスタートを切っております。

■ 本園における園評価のねらい

学校評価を実施することにより、より良い保育や園行事・園運営の充実に生かしていきたいと考えております。職員の自己評価や、外部の皆様にご意見を頂くためのアンケート調査を行い、前年度よりも内容の濃い園評価を実施していきたいと思っております。

学園理念

【教育目標】

つよい体やさしい心の子どもに育てる。

【保育目標】

家庭的保育かつ集団生活における教育の中で一人一人がいきいきとした生活を送る。

【経営理念】

子ども・保護者・教職員に対するサービス心の経営。

基本方針

総合的な経験や具体的な活動を通して、情緒の安定した安全な生活を送り、心身の健全な発達を図る。子育て付加事業により、保護者の思いをサポートしながら、子育て環境の活性を図り社会的役割を果たす。

教育目標

- 一、心身共に健康で明るい子ども
- 一、がまん強く、頑張りのきく逞しい子ども
- 一、優しく素直で、思いやりのある子ども
- 一、ご挨拶の出来る子ども

保育の計画性

- 学園理念や保育・教育目標
- 5領域 10の姿の理解
- 指導計画の作成
- 環境構成
- 評価・反省

【目標・取り組み】

- 職員間のコミュニケーションを深め共通理解を図る
- たくさんのことを経験できるよう、季節に応じた様々な活動を取り入れる
- 子ども主体の保育を心掛け、発達に合った題材を選び、楽しい生活ができるようにする
- 発達段階を踏まえ、玩具や場所を準備し、周知いうして遊びこめる環境を作る
- 1つ1つの活動に見通しをもち、計画を立てて保育を行う
- 視野を広く持ち、今何が必要なのかを考えながら行動していき、職員同士の確認→共有→共有理解を大切にしていく

【よく出来たこと】

- 特に学年間ではコミュニケーションを密に計れたので、スムーズに保育活動を進められた。目標を掲示したこともあり、意識をもって保育を行い、子ども達が主体的に活動する姿があった。
- 子ども達の「やりたい！」という気持ちを大切にしてきた。他の先生方とも楽しく出きるためにはどうすれば良いかと相談して決められた。
- 子ども一人ひとりのゆれる感情や思いに寄り添いながら個人月案を立て、援助・環境構成を行った。
- 園にある玩具意外にも、子ども達の想像力を働かせたり考える事の出来る素材を用意し（作るなどして）、様々な遊びをすることができた。
- 一人ひとりの内面を探り、関心を持った事に共感し、より添い言葉かけをする事が出来た。子どもの表情の変化に敏感に対応し、思いをくみ取り安心感を持てるような働きかけで保育に従事した。
- 消毒作業に日々取り組むことが出来た。

【課題と思ったこと】

- コロナの影響で計画通りにはいかない事や直前に企画の立て直しがあった事、考える事に時間を奪われてしまった事。
- 消毒作業においては玩具等の特性でぬいぐるみや共有して使用する色鉛筆などには限界があり、使用を控える等の対策も必要だったのではと振り返る。
- 急なカリキュラムの変更を求められた為、何を無くせて、何を残すべきかを考える事が多かった。子ども達にとって何が最善かを考え、保育を組み立てる事が難しいところでもあった。
- 書類、計画等、後回しにする事が多く、目に付いたらすぐに行うようにしていきたい。
- 子どもがやってみたいと思う遊びができたか、子どもの学びにどう繋がっていくかを観察し準備していく
- コロナ禍での保育の仕方（環境・導線・部屋の使い方）

<p>保育の在り方</p> <p>こどもへの対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 健康と安全の対応 □ 子どもとの信頼関係 □ 保育者同士の協力・連携 □ 支援を必要とする園児への取り組み
<p>【目標・取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1人1人をよく見ながら、その子に合った援助をしていき気持ちを受け止め信頼関係を築く □ 職員同士連携を取りながら、年齢やクラスに必要な支援・言葉掛けを行う □ すぐに声をかけたい気持ちを抑えて、子どもの様子や行動やから内面をとらえ、丁寧に一人ひとり寄り添って関わっていく □ 複数担任なので、相手の話にも耳を傾けながら、保育の方向性を統一していく。 □ 子ども達が安心できるよう、コミュニケーションを密にとり、変化にすぐ気づけるようにする □ 子どもの手本となる言葉使いや挨拶をするよう心掛ける 	
<p>【よく出来たこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 自分から挨拶やコミュニケーションを積極的にするよう心掛けた □ 子ども達の好きな事がさらに広がるよう魅力的なものを保育に取り入れ、子ども達が日々の保育に期待を持ち生活できるよう、事前に伝えたり準備をする事ができた。 □ 子どもの指差しや喃語に対して、丁寧に関わることができた。 □ 細かい子どもの姿等、よく報告・連絡・相談し合うことができた。 □ 子ども一人ひとりの個性を理解し、皆に合わせようとするのではなく、その子の発達段階に合わせた声掛けや対応をした □ 保育者同士で子どもの変化や成長過程を小さな事でも常に話すことが出来、保育の中に生かすことが出来た。 □ 元気のない子、イライラしている子、甘えてくる子にゆっくりと対応する事が出来た。 	
<p>【課題と思ったこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 乳児組の流れや細かい変化など（午睡の場所、上履き履くようになる etc）職員全体への周知を忘れてたり遅れがちになってしまった。 □ 行事前の事前の打ち合わせが念入りに行えていなかった時もあり前もってできていれば、より良かったと感じた。 □ ペアの先生の話も聞くよう心掛けていたが、つい自分の意見を先に言ってしまっていた気がする。 □ 防ぎようのないケガはあるがなるべくケガ・事故を減らしていくその為にはより細かく職員同士で情報を周知したりヒヤリハットを活用していく。 □ 忙しくなるほどにヒヤリハットは増えそうだが、やはり忙しい時にはあまり出せなかった。 □ 防災訓練をより一層力を入れ、意識を高めたい。 □ ケンカなど、心が不安定になった子どもの内面を探り、時間をかけて持続的に様子を見ていく事が、日々出来ていたか反省点もある。 □ 添おう語に納得した心理状態で解決し、降園させる事が出来るよう、時間軸の中での難しさもあった。 	

保育者としての 資質と能力

- 専門家としての能力・姿勢・義務
- 組織の一員としての在り方
- 保育の楽しみ・喜び

【目標・取り組み】

- 仕事におわれず楽しく保育する
- 思ったことをそのままにせず発信する
- 常に向上心を持って学び、他保育士の保育にも目を向け、良い所等を伝えあえるようコミュニケーションをとる
- 他保育者の助言を素直に聞き入れ、今のクラスに合った保育の在り方を考えていく
- 保育者として願いや保育の意図を持って関り、広い視野を持って全体を見るようにしたい
- 子ども達の成長過程に合わせながら楽しめるよう保育を変化させていく
- 日々の保育を振り返り、専門家としての能力の向上につとめる

【よく出来たこと】

- かみつきが多かった為、防ぐにはどうしたら良いのかと理解を深めるという点で知識を得た。
- 保育者として子ども達の発達また進級に向けて段階を踏んで保育の計画を立てたり遊びの中で行っているよう考え用意をし行うことができた。
- 排尿・排泄の補助などをする中、自ら少しずつできるようになっていく様子も過程も子どもに合わせてながらできた。
- 子ども達の成長過程を把握し、適切な援助をする事ができた。
- 子どもの個性を把握して、それぞれに応じた対応を心掛け、成長した姿を子どもと保護者と一緒に喜び合うことが出来た。
- 主任会議や全体会議での意見交換や職員個人との話をする機会を多く作った。
- 沢山の職員と意見交換や悩みを聞き、前向きに仕事に取り組めるように自分なりに努めた。

【課題と思ったこと】

- 日々の保育で忙しさはあると思うが、他の先生の保育のやり方を見れたら良いと思った。
- コロナ禍で年度末は余裕がなく、職員と向き合う時間が作れなかった。
- 経験値も増え、主任という立場であり、指導する立場でもあるが、人として至らない所は王、良い所も悪い所も評価・指摘（アドバイス）して頂きたい。
- 行事前になると追われししまうことがあるので、そうならないよう努力していきたい。
- 乳児会議などは決め事を中心としたものとなる事が多く、子ども達の話をする時間があまりとれなかった。
- 保護者が安心できるような言葉で、子どもの様子を伝えるように心掛けた。
- 保育環境からか相談しづらい部分があり、ためこんでしまう事が多かった…相談する事も必要だと感じる。
- 会議録や手紙などを見落とすことがあったので、習慣づけてみるようにしたい。

<p>保護者への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 情報の発信と受信 □ 守秘義務の遵守 □ マナー・心構え □ 要望への対処の仕方
<p>【目標・取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 保護者の相談に丁寧に対応し、信頼関係を深めていく □ 言葉掛けや表情など子ども達が安心感をもち過ごせるよう接する □ 必要な情報を発信し、要望を聞き対応していく □ 「気づき、関り、つなげる」の姿勢でソーシャルワークする □ 保護者への報告・連絡は丁寧にし、聞かれた事柄はきちんと確認し対応する □ 保護者から相談などあった際は、担任と連携を図り、事後報告まで丁寧に対応できるよう心掛ける 	
<p>【よく出来たこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言葉遣いに気を付け、丁寧な対応を心掛けるようにした。 □ 文面や口頭での言葉遣いにも意識して取り組めた □ コミュニケーションを取る事を意識した、内容に応じて電話や対面などを使い分け、理解を得ることができた。 □ 挨拶や言葉遣いには十分に気を付け、連絡ノートでのやりとりも大切にした。 □ 沢山の保護者との関りがあり、「話を聞いてくれてありがたかった」とのお言葉を沢山頂いた。 □ コロナ対応の中で、保護者に寄り添い、園の行事を職員同士で考えていく事ができた。 □ 延長保育の時間、担任保育士からの伝言や連絡事項はきちんと伝え、保護者からの問いにも答えたり分からない事は聞いて対応する事ができた。 	
<p>【課題と思ったこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ コロナもあり保護者の方との時間が少ない中で、どう信頼関係を築き安心感を持っていただけるかが課題だと思った。 □ シフトで動いていることもあり、保護者と直接話す機会が少なかったので、連絡ノート・電話などをうまく活用していく。 □ お会いする機会がほとんどなく、保護者の様子に「気づき」がならず、自ら何かなければ連絡をする事が必要最低限とどまった。 □ 送迎時の短い時間でも言葉を交わす事により、信頼関係を築く一歩に繋がると思うので、挨拶+一言を大切にしたい。 □ バスの保護者の方となかなか話す機会がなかったのももう少しで話したりできれば良かった。 □ 保護者の方に伝えたいことが、簡潔に伝えられないことがあった。 □ 保護者の立場に立って、分かりやすく説明するように心掛けたいと思った。 □ 自分は良いと思っても、相手はどう感じるのかを、もっと細かく考えて対応出来たら良かった。 	

<h2>研修と研究</h2>	<ul style="list-style-type: none"> □ 研修と・研究への意欲・態度 □ 保育士としての専門性に関する研修・研究 □ 今、自分に必要な課題に関する研修・研究
<p>【目標・取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 研修に行き、知識・相談事に役立てる □ 学ぶ姿勢を持ち、自分が学びたい事と学ぶべき事を見極めながら知識を沢山増やしていく □ 安全下の中を意識しながら、周知し乳児全体で理解や改善が出来るようにする □ 日々の保育の中での感動や達成感などの思いを共有し、保育者としての活力も養っていく □ より良い保育を目指し、研修に励む □ コロナ禍における、保育のあり方などの知識を得て、実践できるようにする 	
<p>【よく出来たこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 自分に合った内容の研修に参加する事が出来た。 □ 学んできたことを主幹職員と相談し、コロナ禍での園運営に少し生かされたように思う。 □ オンラインでの研修だったが、たくさんのことを学べた。 □ 専門リーダーとしてのキャリアアップに参加する事により、たくさん知識を学ぶことができた。 □ キャリアアップの研修全て修了することができた。 □ 研修で学んだ事は、伝えたり相談をし、今後について話し合えた。 □ 研修を受けたことで、日々の保育の振り返りが出来たり、新たに学べることも多く、今後のモチベーションを上げるきっかけとなったりした。 	
<p>【課題と思ったこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 参加したい研修があっても、日程や人数の関係でなかなか参加出来なかった。研修後の振り返りをもっとしっかりと行い、自分の中に落とし込んで役立てるようにしたい。 □ ピアノの練習をもっとしたい。 □ コロナ禍ということもあり、なかなか研修に参加出来なかった。 □ 研修後の振り返りをもっと行い、自分の保育に役立てる。 □ 特定の分野の研修だけではなく、色々な研修に参加していきたい。 □ キャリアアップの研修の予約をとるのが難しい…（平日のうえ、日数も限られてる） また、同じ園から一斉に職員を参加させるのが難しい。土日開催が望ましい…。 	

以上

全教職員への周知・園内掲示・令和4年HP上への公開を行うものとする。